

○委員長

第7回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

もう第7回で、折り返しとなりました。ここでの話し合いをまとめていくという作業になっていきますので、その部分を念頭に、本日も忌憚のない御意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の次第について確認をします。

最初に、事務局から第6回静岡県社会教育委員会の概要を報告します。

次に、本日の中心となる審議に入ります。

まず、審議の柱（1）3つの人材の役割及び活動を見える化し、それぞれの得意分野を生かした双方のつながりを強化する方策についてです。後ほど説明いたしますが、こちらについては、本日、グループワークも行っていきます。協議内容が報告書の土台となっていきますので、この時点で皆さんの活発な御意見をいただければと思います。

最後に、今後のスケジュールについてです。報告書の作成に向けて、いつ、どのような内容について審議を進めるか、皆様と共有したいと考えております。

委員の皆様の御協力の下に円滑に会を進行いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、第6回社会教育委員会の概要について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

報告させていただきます。お手元の資料1を御覧ください。

第6回社会教育委員会では、まず第39期第1回から第5回社会教育委員会について事務局より説明し、その後、委員から質問を受けました。

続いて、第2回ワーキンググループの概要について報告をしました。

審議では、まず地域で社会教育を担う人材の現状調査。こちらの結果から分かる社会教育における課題の整理について事務局より説明し、その後、委員から質問を受けました。その後、ワーキンググループからの今後の審議の柱の提言について、委員から御意見をいただきました。皆様の御意見を踏まえ、多様な社会教育人材の役割の明確化とつながりづくりを資料3に再整理いたしました。

○委員長

今回は教育長にも来ていただいて、ずっと審議にも加わっていただき、いろいろ内容を深めることができたかなと思います。

報告について、何か御質問等ございますでしょうか。

それでは、本日の審議に移りたいと思います。3つの人材の役割及び活動を見える化し、それぞれの得意分野を生かした双方のつながりを強化する方策についてです。

それでは、事務局から資料3について説明をお願いします。

○事務局

それでは、お手元の資料3について説明いたします。特に、前回から今回にかけての変更点を中心に説明いたします。

まず、調査結果の分析を基に作成した、多様な社会教育人材の役割の明確化とつながりづくりの図について、3つの立場の人材の相互の関係性がより分かりやすくなるように、三角形のように配置し直しました。

次に、前回、お示しした5つの審議の柱のうち、学びを作る人材だけでなく、学びを広げる人材や学びを支える人材を社会教育に不可欠な人材として捉え直し、その活動を見える化する方策。新たな社会教育人材の育成・発掘に向け、3つの人材の意欲やスキルのうち、重点的に強化すべき側面と能力を高める方策。1人が複数の役割を担う現状を改め、各人材の得意分野を生かした役割分担と横のつながりを強化する方策。

この3つについては、委員の読み聞かせボランティアの実態や、委員の地域のお祭りを支える高校生の経験、委員の地域の催し事でのつながりの創出などの事例から、相互に関連していることが示されました。このことから、3つの方策は個別に考えるよりも大きく1つのほうが捉えやすいという御意見を受け、資料3（1）3つの人材の役割及び活動を見える化し、それぞれの得意分野を生かした相互のつながりを強化する方策にまとめました。

（2）多様な主体との連携の中でも、特に企業との連携を強化する方策については変更ありません。

（3）人と活動情報の橋渡しを促進する仕組みやきっかけを生み出すための方策については、前回の、人材間のつながりを生む仕組みやきっかけ、これが重要であるという考えを受け、活動情報を一元化し、団体間の交流やスキルマッチングを促進するデジタルプラットフォーム構築の可能性から、表現をこちらの（3）のように改め直しました。

以上が主な変更点です。

○委員長

資料3は、前回からこのように変更しました。この説明について、何か御質問、御意見等ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

今後の審議の柱を3つにまとめたので、本日は（1）について行うことにしました。今日は、この3つの人材の役割及び活動を見える化し、それぞれの得意分野を生かした相互のつながりを強化する方策ということで協議を深めていきたいと思います。

今日、今から全体でミーティングするところでは、この現状や方策、見える化について自由に御意見いただければと思います。ここから、大体40分ぐらい協議したいと思うんですけど、そこでは、皆さんがいつも活動されている現場の様子や、日頃からお伺いになられてることを含め、（1）に関わったことは何でもいいので、とにかく御意見をいただければと思います。

とはいえ、そんなふうに言われても、何から言ってもいいか分からないということはあると思いますので、最初に、特に印象的だった事例で、先ほど委員、委員、委員さんのことを事務局からも挙げていただきましたが、事例をもう一回おさらいして、そこからいろいろ皆さんにも御意見をいただきたいと思います。

今日は、前半とにかく全体で御意見をたくさんいただきたいと思うんですが、後半部分では、それをまとめていきたいと思います。いつもワーキンググループでまとめることをやっていますが、今日はこの場で、皆さんにも御協力いただきながら、前半部分の協議をまとめていきたいと思えます。

まとめるに当たっては、今日の審議の柱の前半のところで、「3つの人材の役割及び活動を見える化し」という部分を、今日、理解できたことを明確に表わしていくようにしたいと思います。皆さん、今日、前半の意見を聞いているときには、学びの場を作る意見として、これいいなと思ったものは黄色の付箋にメモしてほしいです。それから、学びの場を広げるということでは、現状とかアイデア、とにかくいいなと思ったら緑の付箋に書いてください。それから、学びの場を支えるということで意見が聞けたなと思ったら、青に書くということでお願いします。

後で、個々に付箋を整理する時間は提供しますので、その作業ができるように、皆さんの話を聞いてほしいなと思います。大変なミーティングの時間になりますけど、そんなに付箋を書かなければと思わなくていいので、自由に御意見を書いていただけたらなと思います。

今日の審議の柱の後半部分の、それぞれの得意分野を生かした相互のつながりを強化する方策。

ここについても御意見をいただいて構わないですが、こちらは事務局で聞いていてくれて、出てきたものをピックアップしますので御安心ください。付箋に書かなければとか、そういうことはないです。

今日作業をしたと思ったのは、「人材の役割及び活動が見える化し」という、見える化のイメージというか、どんなふうに見える化をしていったらいいのかについて、皆さんの今思ってるイメージ。見える化といったときに、こんなものをイメージしてることとか、そこに至る課題みたいなものが洗い出せたらいいな。そして、皆さんで見える化といったら、どういうものをイメージしてるという共通認識が持てればいいなと思ったからです。それで、見える化するために、こういうやり方ならできるかなというのを考えたので、それでやるということです。

御意見は、この意見は言うてはいけないとか、そういうのは一切ないです。何でも言うていただいて。それは議事録に残りますし、また後で、ワーキング等で落としてしまった分は拾い上げますので、御安心ください。

とにかく、前半部分は発散技法というか、とにかくアイデアを出し尽くすことをして、後半の3つの付箋に書いたものを整理するところで収束していく。今日の皆さんの意見は、こんなことが上がりましたというまとめの作業をグループワークでやりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

この付箋を使って、グループワークでは、皆さんが書いた黄色の付箋を集めて、それを構造化してもらおうグループ。それから、緑、広げるについて集ったものを構造化していただくグループ。それから、青、支えるのアイデアを構造化していただくグループと分けて、作業をしていただきたいと思います。

ですから、後半のグループワークでは、皆さんの意見をどうまとめていくか、それぞれのグループでやっていただきます。私もチャレンジなので、このメンバーならやれるかなと思って考えたグループワークなのでよろしくお願いします。

○委員

質問させてください。3つの柱については理解したつもりです。ただ、「学びの場を作る」で挙げられている「つなぐ」と、「学びの場を広げる」で挙げられている「巻き込む」と、「学びの場を支える」で挙げられている「知らせる」が、かなり重なり合う感じがします。3つに分けたときに、「つなぐ」、「巻き込む」、「知らせる」をどういうイメージで考えられたのでしょうか。ここを教えていただかないと、結局、どこに書いてよいか分からないということがあるものですから、教えて

いただければありがたいです。

○委員長

私も、ここのどれをつなぐと言ひ、どれを巻き込むと言ひ、どれを知らせると言ひ、皆さんと同じように考えられてるか、ちょっとよく分からないので、それも、それぞれの感覚で書いていただいで構いません。

そうすると、多分、それぞれのグループでまとめるときに、つなぐ、巻き込む、知らせるの付箋が、もしかしたら一緒のものがそれぞれに入っていたら、それはそれでまた独立させたりするか、この部分は作るに入れるか、広げるに入れるか、支えるに入れるか、そういう分類はせずに後半のつながりを強化する方策に持っていくほうがいいかもしれないので、そういうところも含めて考えていきたいと思うんですけど、いいですか。

御自身の判断基準で、どれに入れていいか分からないものは、どれにも書いてもいいし、どれかに寄せて書いてくださって構いません。

○委員

委員の質問にも係りますが、あまり議論の方向をそっちに向けたくないですけど、私のイメージだけ。私は、この企画のつなぐは、どちらかという関係の当事者に関わるころ。広げるというのは、関係者からもう一段輪の外にいる人。支えるというのは、さらに、今、ここに名前が上がってない人という形のもので。輪っかという、つなぐというのが当事者同士。広げるというのが当事者と関係者。知らせるといのは、関係者から、さらにまた利害が多少かかるような関係者というイメージを、私自身は持っています。あまり議論柱にさせていただく必要はないかなと思うんですけど。

こういうものも、例えば、私はこう考えるというのも必要かなと思いますので。そういった意味で、委員長がおっしゃるように自由でよいと思いますが。話のきっかけとして、私はそんなふうイメージを今のところやっていますが、聞いていく中で、自分も変化するかもしれません。そういうふう思っています。

○委員長

これから、皆さんの御意見を伺いたいと思います。まず、委員、委員、委員から、前回の御意見とも関連付けて、今日の審議の柱に関連して御意見を伺えればと思います。

○委員

前回、私のほうで、図書館でボランティア活動をしてくださってる皆さんから、高齢化、メンバーの固定化が課題だよという話をさせてもらいました。皆さんがおっしゃるのは、ボランティア活動をしていることを周りの方に話をすると、「すごく立派なことをしてるね」などと言われるけど、「そうじゃなくて、楽しいからやってるんだよ」、「あなたもどうですか」という話をしても、なかなか、「じゃあ、私も」となっていない。結果、一度出来上がったグループメンバーで、ずっとそのまま年を重ねて上がってしまうという話をもらいますという話をさせてもらいました。

もう少しハードルを低く、ボランティアをものすごく立派なことに捉えるんじゃなくて、ちょっと面白いと思うから参加したいと思った人がだんだん手伝ってくれて、そのうち、コアなメンバーに入ってくれてというのが、一番広げる形になるのではないかなという話をさせていただいたのが前回でした。

そのお話を聞かせてくださった方と、担当職員に確認してみましたら、そうは言いながら、一方で、皆さん、新しい人が入ってくることに、ちょっと抵抗を感じることもあるという話もありました。新しい人が入ってきてほしいけど、どんな人が入ってくるか分からない。自分たちが今までやってきた気心の知れた仲間のいいつながりから、新しい人が入ることによってどんな方向に行くか分からなくて、今、新メンバーを募集してませんみたいなグループさんもあったりするそうです。

皆さん、新しい人が入ってきてほしいという気持ちと、新しい人が入ってくるとまた大変になるという気持ちとのせめぎ合いでやっているのかなと感じました。

また、地域で読み聞かせのボランティアをしている職員がいたもので、その職員に何か課題はあるか聞きました。学校の読み聞かせのボランティアだと、まず自分のこどもが入学したときに入って、卒業のときに終わりなのかと思ったら、新しい人が入らないのでそのまま続けているみたいな方が結構いるそうです。

新しい人が入ってこない理由は、やはり今の親御さんは忙しい。読み聞かせのボランティアだと、活動時間は朝だとわかると、朝はとても忙しくて活動ができないからといって新しい人がなかなか入らない。でも、例えば授業の中や、行事に合わせてお話し会をするときなんかは行ける人もいる。やっぱりイメージで、なかなかハードルが高いようです。

また、活動している人数を聞いて、あまり少人数だと、その中に入ったら、いきなり責任者みたいなものが回ってくるのではないかな。ちょっと面白そうだから周辺のお手伝いぐらいで入ってみたいんだけど、入った瞬間に何もかも背負わされてしまうのではないだろうかと思うと、なかなか二

の足を踏むみたいな話も聞きますという話をもらいました。

○委員長

本当、お願いが急だったので、申し訳ない。ありがとうございました。

○委員

資料を用意しましたので「磐田西高等学校の地域活動への取組」をご覧ください。

磐田西高校では、目指す生徒像のグラデュエーションポリシーを『校訓「道 自ら求め 自ら拓く」の精神を基に、向上心を持って自ら学び、主体的に活動ができ、グローバルな視野を持って地域・社会に貢献できる人を育てます』と掲げています。

この目指す目標と本校の実態を赴任して2か月間、観察したのですが、本校生徒には『主体的に活動する』ところが足りないという実感がありました。言われたことはきちんとできるし、一生懸命やるんだけど、自分から進んで一步踏み出すところがあると、さらに大きく成長するのではないかという可能性を感じました。そこで1番目にあるように、生徒・保護者へ様々な社会教育的なイベントや学習機会になるようなものを配信するようにしました。

こういったものを配信する人が決まっていなかったので、私が配信をしています。それは、情報が一番入るといって、生徒が様々な活動をしている場所に行くと、そこにいらっしゃる方とつながったり、市役所の方とつながったりして、「校長先生、こんなものもあるんです」と持ってきてくださることがあって、それをまた配信する。ある意味、好循環になっているところがあります。大学や専門学校でも学びを体験できる機会があり、それは進路課職員が生徒へ頻りに情報を提供してくれています。一部ですけど、こんな感じで、配信ツールで配信しています。

配信の際は、最初の1行目がポイントだと考えています。面白そうって思ってもらえるような1行目を意識して、安心感を与えるように、国や県教委のプログラムであるとか、参加費がかからないということ。あるいは、今回は軽めだから、気軽に参加してみたらどうという投げかけとか。そんなふうに1行目の書き方って、結構工夫して書いています。

従来、こういったことは紙の案内をいただいて、教室に掲示して、担任が呼びかけるのが定石でした。配信ツールで、生徒だけではなく保護者にも同じ情報を配信することで、参加者が増加しています。生徒よりも保護者の既読数が高い傾向があり、保護者の後押しも参加者増加の要因のひとつであると感じます。国際交流のいろんなプログラムには、これまでほぼ参加してなかった状態だったんですが、今年は留学やホームステイ、海外インターンシップに参加する生徒が増えています。

県教委の企画については私に直接申込みをするようにして、生徒たちの興味・関心や本気度を聞き取ったり書かせたりして、エントリーしました。うまくいくこともいかないこともあるんですが、そういった形で生徒を鍛えながら、いろんなところに送り出すことをやっております。

さらに参加した生徒たちに、振り返りをして自分は何を得たのか、どんな気付きがあったのかを全校生徒の前で発表させる機会もつくっています。昨年、発表を始めた頃には、「みんなの前で発表するんですか・・・」という生徒だったんですが、この頃は、「あんなふうにやればいいんですね」「やりたいです!」というように積極的になったことも感じます。

それから、今年の3年生は、昨年のうちからどんどんいろんなところにチャレンジした結果、進路実現の際に自分を語る材料としてかなりPRできた生徒も出てきました。様々な活動を通して自信が持てる生徒になったところが、グラデュエーションポリシー実現に近づいたと感じます。

課題と感ずることですが、現状、私のところにいろんないろんな情報が来るので、私が配信しているということがあります。中には、郵送で送られてくるとか、いろんなところから情報が入ってくるので、その整理・集約を誰がどうやってやるのかという仕組みを学校内でつくるのが課題です。

2番目に、本校では部活動や委員会でいろいろな社会活動に参加していることがあります。大急ぎでどんなことがあるだろうかって調べたのですが、まだまだあると思います。特に、音楽部、ダンス部は、本当にたくさんの地域のイベントに参加したり、お手伝いしたりということがあります。私もそういったところに足を運ぶんですが、部の顧問の先生や生徒が地域の方々とつながって、次々にお話をいただいて、年々活動が広がっている状況です。書道部、華道部など文化部で地道に活動している部活も、市の芸術祭に出品をして地域とつながりをもっています。顧問の先生のご指導で、表彰式には部員全員が作品の鑑賞の機会も兼ねて参加していました。芸術祭の参加者は、案外地域のお年寄りの方が多いです。そういった方々が、高校生がこういうふう足を運んでくれてうれしいということで、話しかけてくれたりして、輪が広がっていました。また、市の依頼でPR動画等を作るということで、演劇部では幾つかの動画を作っております。(資料に写真が載っております。) また、図書委員会では、これも20年ぐらい続いていると思うんですが、近くの小学校に読み聞かせを7月と12月に実施しています。2回行くことで、1回目に課題と思った、あるいはうまくいかなかったことを、2回目には工夫してうまくやれているところが見てとれます。(資料の右側に写真があります。) これは授業で取り組んだものです。本の紹介のポップを作成して、中央図書館さんに飾ってもらえないかってお願いしたら、今日までだったんですけど、飾ってくれました。こうしてまとめてみると、本校の先生方が、部活動や委員会活動等で校外の活動に、生徒の学びになるような形で積極的に取り組んでくれていることを実感しました。

3番目が、前回お話をした、お祭りを支えるということについて一人例を挙げると、ちびまる子ちゃんのたまちゃんのような風貌の女子生徒の話です。部活は華道部で就職希望です。本校の場合、商業科がありますから、事務系の求人もたくさんあるんですけど、就職選考会で彼女の第一希望が大手製造メーカーA社の製造現場だったんです。A社は従来、元気で明るい体力のある生徒が採用されている傾向があり、おとなしそうな文化部の生徒は残念ながら合格できていないという実績がありました。当然、選考会議で「この子、大丈夫だろうか」となりました。ところが、彼女と話をしてみると、「地域のお祭りが大好きで、太鼓の指導もやる、当日のこどもたちの見守りをずっとやっている。そういったつながりの中から、自治体の清掃ボランティアに参加。これも1回や2回じゃなくて毎回参加していて、炎天下の中で半日間ぐらいつとごみ拾いをしたとか、夏祭りでも手伝ってくれと言われてたり・・・」と本当に目をキラキラさせながら語り出したのです。就職試験には「あなたのそのキラキラした笑顔で熱く話ってください」って送り出したら、見事合格できました。

学校から推薦されて、進学や就職などの試験に行くときに、どうも狭い感覚で、学校での取組だけを話すのではなく、学校の外に様々な学びがあることを生徒たちにもっと教えてあげなければいけないと感じたところで、今、頑張っています。

最後に、学校としては、学びを支える人材を育成する、あるいは支えるために情報を広めるところは担っていけるのではないかなと日々感じているところです。

○委員長

磐田西高校さんは本学のイベントにも出てくれて、校長先生、ちゃんと見に来てくださって。ありがとうございます。

○委員

前回、キッザニアならぬミナミッザニアのお話をさせていただいたかなと思っておりますが、井戸端会議はすごく大事だなと思っています。井戸端会議で出た、やってみたいとか、楽しそうとかということ、どう拾い上げていくか。そこにアンテナを高くするとか。こちら側がアンテナを高くするのもそうですけど、やってみたい、楽しそう、あの人に言ってみようというキーパーソンみたいな人が何人かいると、そういったところから次につながるなと思って、いろいろな活動をしてきています。

人づくりとか地域づくりは1年や2年じゃできないので、欲張らず、こつこつと細く長くやるの

が、私は信条としてやってきているので。できる人が、できるときに、できることをやりながら、無理をせずやっていって。それが、何となくみんなが疲れずに長く、また来年もできるよねとか、また次回もできるよね、来月もできるよねとつながっていっているのかなと思います。

例えば、以前、南小の活動の中で紹介させていただいたかと思いますが、文化祭。本年度は11月22日から12月5日までやっていました。4年前は20人弱ぐらいの出展者で始めた文化祭だったんですけど、今年は60名近くの地域の方が出展をしてくださって。しかも、裾野市だけではなく、三島市や函南町や富士市から作品を出してくださった方がいました。

それは、どうしてかという、出展した人の作品を見に来た人が、ハードルの低さや楽しさに魅了され、来年は私もここに出したいから、作品を持ってきてもいいかしらと次々とつながって、今年、60名近い大人の方が作品を出してくれたと思っています。その中で、もちろん子どもたちや保護者も作品を出してくださいますし、学校の先生方も、俺らだって、私たちだってこんな得意があるのよって、今年は作品を出してくれたりして、その輪は広がってるなと思っています。

作品の中に、消しゴムハンコを出してくださっている方がいるんですが、廊下で1年部の先生が、「消しゴムハンコかわいいよね、やってみたいよね」とこそっと言ったのを私がたまたま聞いて、「じゃあ、やろうか」と。ちょうど今週の月曜日に、学校の先生方の就業時間の後、4時半になってから、地域の方、消しゴムハンコを得意としてる方に学校に来てもらって、希望する先生方がいたら、「消しゴムハンコ教室やることできるけど、どうする」と言ったら、6人の先生が、「僕たちやりたいです」と会議室に集合をして。趣味にしている方に消しゴムハンコの作り方とか教えてもらいながら、オリジナルなハンコ。自分の似顔絵のハンコを作った先生が多かったですけど、「プリントやお便り、子どもたちのものに押したいんだ」と、自分のオリジナルハンコを作っていました。

そういった形で、地域の人と先生がつながります。あとは今月、本当に12月3日ぐらいにですけど、私のところに子どもたちから、地域の人に感謝の会をやりたいんだよねというところから始まって、23日、この間の火曜日に感謝をする会をやったんです。間が20日しかなかったんです。

やりたいって言われたものの、地域の人すごい関わってるので、どのくらい来てくれるかなと思いつつ、私も一生懸命お願いをして。平日なので、どのくらい来てくれるか分からないけど、来れる人来てくださると、シニアさんだったりとか、サポーターさんだったり、保護者の方、いろいろ南小に関わってくださる方に声を掛けて。平日だし、30人か40人ぐらい来ればいいかねって40席ぐらい用意したら、八十何名の方が来てくださって、椅子が足りずに大慌てで出して。平日の昼間なのに、こんなに支えてくださってる人がみんな参加して、子どもたちからの感謝の会を、

「かわいいね」と、見てくれたのはうれしかったなと思います。

井戸端会議や、子どもたち、地域の方、保護者もそうですけど、そういった方のやってみたいとか、やってみようを少し支えることで、主体性が育っていくというか。じゃあ、こうすれば、次のときにはこんな手順でやったらいけるぞとか。先生に相談して、三ツ石さんに相談して、あとはこの人に相談してというのが、少しずつ子どもたちの中にも力がついてきたなとか。それをキャッチする地域の方や保護者の方も、温かく見守る形がすごく取れてるなと思っています。

感謝の会とかは、一般的にこういった会を小学校とか中学校でやるときに、「開会の言葉」みたいなものがあるかと思うんです。「校長先生挨拶」も校長先生が、「地域の皆様、保護者の皆様」みたいなものやるかと想像されるかと思うんですが、先生、大人は、誰も一人もしゃべらない。最初から最後まで、全てこどもの力でやるという会でした。

それを見て、地域の人や保護者は、子どもたちがあたふたしていたり、本当は来る方が来れなくなったり、来れないと思っていた方が来て、急遽しゃべる時間が出たりを、あたふたしながらやっている様子を温かく見守り。こういう経験が大きくなってから生きていくんだねというのを、実感できるととてもいい時間だったなと思いました。

子どもたちだけで、40分、45分の時間をやり遂げた後の6年生のやり切った顔がすごくよくて。立派にやれたというか、すがすがしい顔ですかね。僕たち6年生、すごいだろうという顔がよかったなと思います。

私も、地域の方や保護者の人に声を掛けるのに、全てに声を掛けられたわけではありません。お願いして、皆さんで声掛けてねと、いわゆる口コミです。私がよく言っている口コミだったり。あとは学校のホームページとか、学校便りを使ってやっているの。回覧板もそうですけど。そういったところで少しずつ広がって行って、輪が繋がっていくのかなと思っています。

南小自体とても立地がよくて、歩いて行きやすいとか。駐車スペースが結構あるので、地域の方も、シニアさんなんか乗り合わせで来たりとかもあるんですけど。あとは、何分、学校側が地域にすごく開放しているところが大きい要因かなと思っています。

○委員長

今、お三方に、前回のことも含め、また膨らめて、いろいろ審議の柱1に関わるような話をさせていただきました。

そのほかの委員の皆さん、いかがですか。今の紹介に対しての質問でもいいですし、自分の活動の中で、こういうのもあるというのがあるかと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員

小学校ですが、今年の夏に、地域のまちづくり協議会で「宿題片づけ隊」というのが行われました。何をやるのかなと思って、私も気になって当日見に行きました。まずは、すごいすてきなチラシが学校に配られました。社教の関係のものは、ほとんどが学校にチラシで来ます。それをまず大々的に宣伝して。学校から、「行かない？こういうのやるみたいだよ」と、宣伝はします。

当日行ったんですけど、学校と公民館なので、一番広い部屋でいろんなブースがあって、協力してくださる方たちが何人も来ていました。だから、これこそが核になる方たちなんだろうなと思ったんです。市議会議員さんを初め、地区にいる方たちが算数を教えたり、図工のポスターと一緒に、「こうやって描くといいよ」とか、習字を教えてくれたり。そこで、会場設営を手伝ってくれている公民館の職員さんもいました。その方たちが会場セッティングをして、必要なものを用意して支えてくださっていました。

やはり、「校長先生、見て、こんなに上手にできたよ」と言いながら、楽しそうに参加することもたちを見て、学校の外でもこういう活動をやっている方たちがいるということ。それが、ここで言う核となる人たちだと思います。学びの場をつくってくださった方、そこで支えてくださるスタッフの方たちがいて。それが本当にボランティアで、お母さんだったり、おじいちゃんだったり、うちの学校の学校運営協議会の委員さんもいました。

そんな中で、「友達に誘われて来たよ」と、同じように口コミで来たこどももいました。チラシは見ないけど、誘われたから来たとか。お兄ちゃんが行くから私も来たというふうに、兄弟で誘い合って来たとか。このようにして、そういう活動の場が、学びの場があるんだよということが広まっていきました。

その中で、支える方たちとしてのスタッフがいて、送り出す。ここは重要ですけど、保護者の方も夏休みのときだったので、きっと送ってくれなければ、そこに参加することはできなかったかなと思うので、やはり保護者も重要な支える役割を果たしているのではないのかなと思います。それを紹介する先生たちも、支える場の一翼を担ってるのではないのかと思った1つの事例でした。

そのほかにもいろいろ活動があるのですが、一つの学習の例として、総合的な学習の実践があります。学校から地域の学習材を拾って、地域のよさを伝えたいということで、地域の祭りに今度は学校側が出て行って、ブースをもらって、学んだことを大々的に広める。

広める中で、保護者のアンケートを取って、「僕たちの発表したこと知ってましたか」とアンケート取って。その語の学習では、もう少しアンケートの結果が、知らなかったとか、思わしくな

ったので、広めていきたいと。

だから、一方通行じゃなくて、場を与えてくださった地域の方がいたおかげで情報収集もできたし、学校での活動を広めることができたことで、やはり学校と社会教育は切っても切り離せないと実感しております。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。いろいろ実践されてる皆さんなんで、自分のフィールドでお話しいただければなと思います。

○委員

私は、行政の職員として働いていますが、講座やイベントを企画して実施することがあります。現在、中学校での対話の場を企画・準備しており、参加していただける方を探しているところです。やはり、直接会ってお願いすると、話が通りやすい、こちらの意図が伝わりやすいです。先ほどの委員の発表にもあったように、デジタルの時代と言われながらも、リアルで会い、つながることが大事なんだと改めて思いました。

さらに、行政は色々な部署があり、様々な団体や機関とつながっています。今回の企画では、対話の場に参加していただけたような方を、色々な部署に依頼し、推薦していただきました。色々なところにある人材を「つなげる」ことが社会教育なのかなと思いました。また、参加していただく方を「講師」と称した時に、相手が構えてしまうことがありました。先ほどボランティアについてお話が出ましたが、「ボランティア」と称することで、何か崇高なことをするのではないかと敬遠されてしまっているのではないかと。言葉が持つ意味だけで、誤解されてしまうのはもったいないですが、ちょっと扱いが難しい言葉はわかりやすい言葉、伝わりやすい言葉で伝えるのも必要だと感じたところです。

最後に、「広げる」という意味で、保護者を巻き込むのは良い考えだと思いました。こどもの活動を支えるのが保護者であるので、支える・ひろげる方々に情報がいくことは、活動していくうえで大事であると思います。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員

本当に皆さんが、地道に地域の資源を最大限活用されている様子を、賢いなと思いながら聞かせてもらっていたんですけど、私が、昨年度の活動の中で、これまでなかったような残念な経験をしたことがあります。それがなぜかという、やはりPTAの事務局としての部分ではあったんですが、参加される役員の方が、PTAは社会の悪なので、コスパ・タイパが悪いので、できる限りスリム化して、最低限の活動でよいのだというポリシーの方が役員になられた年だったんです。

それまで積み重ねてきた、行政と協力しながら何かをやるとか、そういうものが全て無視されて。その方のコストパフォーマンスというか、できる限り省力化して集う場。オンラインで全てやればいいじゃないかとか、講座に関しても、YouTubeに置いておいて、好きなときに好きな人が見る形にすればいいじゃないかとか。

確かに、それはそれでメリットもあるかとは思いますが、やはり社会教育の根幹であるところの、集まって、学びを通してつながりをつくっていくところが、最初の部分で足並みをそろえることができないままスタートしてしまった故に、起こってしまった悲劇だなと感じています。

年が替わって今年度は、スタートの部分でそのお話をちゃんとしてから進めることができたので、また、それまでの活動のように、集うことも大事だよ。あと、単に話を聞くだけではなくて、その場でグループワーク的なことをして語り合うことによって、緩やかなつながりづくり。地域で保護者同士が緩やかにつながることによって、今すぐでなくても、将来の自治会の活動であるとか、将来、こどもが大きくなったときに、自分たちが社会の担い手になったときに、役に立つような。人を知っていると、人脈づくりという部分の、PTAの社会教育的な側面を生かすような活動が今年はできているんですけど。

今、伺ったお話も、いろんな活動ができていることも、根幹の共通認識が、やはり地域の人とやる側の主体が共有できていることがすごい大事なかなと思いました。

たまたま、私も社会教育委員と社会教育士を兼ねているものですから、このところ、立て続けにいい研修の場をいただきまして。ちょうど先日、三島において、東部の社会教育関係者の研修会で、大正大学の牧野教授にお話を伺ったときに、やはり国の議論、社会教育に関する議論で進んでいる考え方として、みんなが幸せにいるために、一人一人が幸せにいるためには、社会自体が幸せであることが大切だという共通認識があつて。そのために、それぞれのフィールドでいろんな活動が行われていることが、非常に大切なことだよとおっしゃっていたのが、まさに、私がここ数年感じてきた、うまくいかないパターンとうまくいくパターン。うまくいくときには、そういうことが大事なんだと言語化していただいたような気がして、非常に私は腑に落ちたところだったんです。

皆さんの、作ると広げると支えるが成立する根本的なベースとして、何のためにこの活動をやっているんだっけということを共有できていることであったり、そういうことを話し合う場があることによって、ボランティアだったり、講師だったり、を、どういうふうにハードルを下げているのかとか。

あと、市や町のつながりを、これまでのハードル。これまで、学校だからこういうことしちゃいけないんじゃないかみたいなところを突き破って、新たなつながり。学校の生徒が地域に出ていくことを、背中を押すであるとか、新しい社会教育的な活動が生まれていっているのかなと思ったので、感想で申し訳ないですけど、お伝えさせていただきました。

○委員

今、地域の活動ですけど、私、社会教育委員を長くやっておりました。前回のときにも少し発言させていただきましたけど、例えば社会教育課なりが主催でやる講座とかイベントも、どっちかと言いますと、今の3つの柱のように、「作る人」、「広げる人」、「支える」ところはあまり念頭になくて、以前は、作る人が広げ、自分でもって呼びかけ、支えると、一人三役みたいのところやってきて、非常に大変だなというイメージが今まで強かったんですね。

今、委員さんのいろんな意見を聞きますと、一人でやるといかにして人を集めるかというところが最大目標みたいになっちゃって。それによって、多分、講座の内容とか、講座を聞いた人がどんな感じで帰ってくれたのかなというところまで、なかなか気が回らなくて。何人来てくれたかの方に気が回ってしまって、どんなことをしたら楽しく皆さんが聞いてくれて、帰っていただけるかまでなかなか気付けない。皆さんの話を聞いて、私も振り返っての反省をしているところでございます。

やっぱり学びの場、行ってみたいなのというところは、楽しいという場がないと、なかなか参加もできないのかなというところがあります。そんなところも目標に考えるのだったら、一人で全部、3つ役割を背負わないで、皆さんで分担をして、「広げる人」、「作る人」、「支える人」でもってできていったら、もっともっと楽しい学びができていくのかなと感じたので、一言話させていただきました。

○委員長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

今日、まとまったお話をしようと思いましたが準備をあまりしてこなかったもので、取りとめのないお話になるかと思いますが、よろしくお願いします。

実は、私、情報モラル系のNPOをやっている、今年度で解散をすることになりました。3月31日で、今年度いっぱい一区切りをつけることになりました。理由、理由は正に委員がおっしゃっていたように、メンバーの高齢化であったり、固定化です。それから、皆さんのお話にも出てきましたが、私たちが始めたときから、ボランティアではなくて、きちんと謝礼金をいただいて、口幅ったい言い方になりますけど、プロの仕事をきちんとしていこうという思いで集ったメンバーが続けてきていたものですから、新しい方をスカウトして、養成するところにあまり目が行かなかったところが、今回の解散につながる1つの理由だったかなとも思います。

最初は中高生の、青少年の情報モラル。保護者の方向けが、今でも一番活動が大きいボリュームゾーンです。学校から講演の御依頼をいただいて、例えば高校ですと、全校生徒向けだと1,000人を超える学校もありまして。その前で話を90分なりしてこいってなると、それなりのトレーニングも要るし、誰にでもできることではないので、なかなか新しいメンバーを作ることができなかったという反省はあります。

そのボリュームゾーンのところは、実は私たちがいつまでも頑張らなくても、企業の方ですね、ゲーム会社の方とか携帯会社の方であるとか、国のほうでも、総務省でe-ネットキャラバンという組織があったり、県でもアドバイザー養成講座でアドバイザーを年々生み出していたりということで、環境も整ってきて、私たちが、二十数年前に、こどもたちのためにこれは誰かがやらなきゃいかんといって立ち上がった時代の役割は、一定は果たせたかなという思いもあります。

ボリュームゾーンのほかに、活動する中で生まれてきたのが、乳幼児、生まれたときからのスマホ利用で悩む保護者の方々にどういうふうに寄り添っていこうかという部分であったり、スマホを持ち始めたばかりのシニアの方が、いつまでも使い方が、なかなかなじまなくて、他人にだまされちゃったり、買物しようと思ったら、変なものが届いちゃって、どうしようみたいなことのお悩みが含まれてきたりということがあります。そちらの対応も求められるんだけど、それについては従来のやり方では難しいなと、本当に感じているところで。

特に、シニアの方向けについては、講座があるから、何曜日のどこそこの生涯学習センターに行って勉強しなければということじゃなくて、今困ってること、ちょっと聞ける人がそばにいればよかったのに、本当にそれだけのことで。周りとのつながりであるとか、ちょっと詳しい人は、あの人に聞けば教えてもらえるよねというネットワークづくりこそが、実は、シニア向けについては解

決の大きな要素だったなと思っています。

ですので、地域の公会堂で、居場所づくりみたいな動きって地域であると思うんです。そこで、あんまりしぼりがあるわけではなくて、何となく集ってお茶飲んでおしゃべりをしようという場に、時々、少し詳しい人を呼んで、みんなで、せっかくだからちょっと学ぼうとか、ちょっといい話を聞こうというような会を持ってるところから声を掛けていただいて、最近のスマホはねとか。「困ってることありますか」なんて言って、ちょっと教え合うみたいな。これ知ってる人いますかみたいなことをやって、すごく喜ばれたという経験がありまして。

これこそが新しい形の情報モラル講座というか、インターネットの利用の新しい形。それをすることによって、安心・安全なネット社会にもなっていて、いわゆるウェルビーイング、デジタルウェルビーイングという言葉もあるんですけど、リアルの世界でも、ネットの世界でも、みんなが安心・安全で幸せな社会につながっていくような、そんな社会教育であつたらいいなと思っています。

○委員長

貴重なお話をありがとうございました。

○委員

今、PTAの話が出ましたが、先ほど委員が、ボランティアという言葉は一步引かせる言葉とおっしゃいましたが、それなら、PTAは三步ぐらい引かせる言葉ではないかと思います。今、本当にいろんな問題がいろんな形で出てきています。

難しいのは、PTAそのものの問題と、もう一つ、PTAの関係者が、結構、地域の活動にそのまま移行していくという場合の問題があるという点です。まず、PTAについて言いますと、継続性を確保していかなければならないわけです。PTAをなくすわけにはなかなかいかないので。そうすると、PTAに関わる人をできるだけ交代させていこうということになります。逆に言うと、やる気のある人でも、例えば、毎年交代しないとやり手がなくなるから役員を替わってくれと言われます。要するに、あなたが3年とか4年やると、一度役員をやると長くやらなければならないと思われて、次のなり手がなくなるので替わってほしいと言われるわけです。実際、そういう学校は、結構あります。

交代をすることによって、ある種、継続性は出てくるのですが、一方で、惰性につながっていくわけです。つまり、どうせ期間も短いし、1年で交代するのだから、余計なことはしないようにし

よう、そしてこれまでしてきたことと同じことをやりましょうということになりがちなのです。

ただ、最近、傾向が変わってきていて、なかなか手がいないので、役員に個性の強い方がなることも少なくありません。昔ですと、コミュニティの中でそういう方はなかなか広い支持を得られないことが多かったのですが、最近とはにかく役員のなり手がいないので、手を挙げてくれるならやってもらおうということになりがちです。ところが、そういう人がやるとどうなるかという、今までみんなができなかったことをやりたいということで、PTAを解散しようとか、極端な方向に話を持って行ってしまうこともあります。つまり、役員を交代させることで継続性を確保したつもりが逆の方向に行くわけです。まず、そういう問題があります。

逆に、先ほども話がありましたが、なかなか続かないというときに、どうしてもいろいろとやってくれる個人に頼ることも少なくありません。PTAの役員経験者は、結構、地域のコミュニティに入って行って、そういうところで活躍される方が多いわけです。ところが、今度はどうなるかという、そういう人が頑張っていると、新しい人が逆になかなか入ってこない。先ほど、委員の御指摘もありましたけど、そういったところで、結局、メンバーの高齢化が進んでいくわけです。

例えば、私の妻は、放課後子ども教室を、自分の子どもが小学生のときから続けています。ところが、メンバーはほとんど替わらないまま、もう自分の子どもはとうの昔に卒業したのに、10年以上ずっとやっています。しかし、メンバーがほとんど替わらないとなると、いずれはみんな年を重ねて体が動かなくなってくるから、続けていけなくなるだろうと思います。

その辺りが非常に難しいと感じるわけです。ただ、一番難しいのが、これを絶対やらなければいけないとなると、やっぱりなかなか続かないし、新しい人もなかなか入ってこないということになりがちです。そういう意味では、委員が先ほどおっしゃったように、できる人が、できるときに、できることをやるという仕組みをどうつくっていくかが大事なのではないかと思います。

さっき、委員から、PTAの活動についてもいろいろとお話がありました。PTA活動については、負担感がかなり大きいのでそれを何とか減らそうという人もいれば、逆に負担とばかり言っていると人のつながりがなくなってしまうのではないかとということで一生懸命頑張る人もいます。その辺りのバランスの取り方も非常に難しいということをお話しを聞きながら感じていたところです。

そういう意味で、これからの議論の中で、その辺りをどうしていくか、なかなか考えて答えが出るものではないのかもしれませんが、大変重要だなと思って聞いておりました。

もう一つだけ、先ほど資料に基づいて、委員からもいろいろ御指摘をいただきました。例えば、いろんなつながりをつくっていくだけで、子どもたちが主体的に動いたり、保護者も逆に主体的に

動いたり、地域も主体的に動いたりするところがあります。これは委員がおっしゃった、少しだけ後押しすると主体的に動けるようになるということにもつながると思います。この少しだけ後押しするというのはどの程度なのかとか、その辺りもいろいろ議論していければと感じたところです。

○委員

私は、本年度、教育に関して新しい体験を二つしています。1つは静岡市内の私立高校で国語の非常勤講師として正規の授業を約40時間担当して、教室という学びの場を体験しました。

もう一つは、委員との御縁もあって、この前、図書館で、新聞コラムを題材にしてお話しさせていただいた。

両方とも根底には、新聞社のプレゼンスを高めたいという思いがあります。教える立場を経験して、かえって自分が学ぶことのほうが多かったです。はからずも、企業との連携の実践を体験できました。

新聞社の場合もそうですけど、ほかの企業もB to C、消費者の方たちに好印象持ってほしいということで、社会とつながりたがっているというのはあると思います。企業とその従業員は、学びの場を作るにしても、広げるにしても、支えるにしても、いろんな役割ができる。むしろ声がかかるのを待っているのではないのでしょうか。

新聞社の場合は、例えば、委員に、こんなこと考えてるんですけどと相談して、人を集めて、会場を貸してくれませんかとお願いしてみる。すぐにチラシを作ってください、当日はパソコンをつなげる準備とかもしていただきました。生涯学習講座について、大変、学びの場になりました。

例えば、高校の授業の場合は、いろんな新聞の話題を取り上げたんですけど、一番印象に残っているのが、風俗営業法の改正で話題になった悪質ホストクラブ。あの記事を読ませて、解説したとき、「そういうものを自分事で考えられるのが知性だ」と言ったらしくて、それを一番覚えてるという生徒がいました。このように企業も十分に社会教育に参画していく余地はあると思います。

○委員長

それでは、付箋は気が済むまで書いていただいて全然いいですけど、もういいという方は貼りに。また、整理するのは担当がやるわけですから、取りあえずランダムに貼っていただければいいので、よろしくをお願いします。

(記載中)

○委員長

皆さん、短時間にも関わらずたくさん書いていただいて、本当に皆さんのすばらしさを、今、感じております。

それでは、資料4を見ていただきたいです。ここに、既に、今日の出席名簿にも書いてありましたが、今、「作る」、「広げる」、「支える」で付箋を集めましたので、このメンバーと書かれている方たちで、その付箋を整理していただきたいと思います。グループ化するとか、構造化するという作業をして、私たちが、今日の会議ではどういうことを共有してるか、まとめていきたいと思います。

もう時間がないので、午後3時50分まで、ちょっと短いですけど、それぞれ御担当のところで付箋の整理をよろしくお願いします。

一番上の方がリーダーとかそういうわけじゃない、仲良くやってください。

(ワークショップ)

○委員長

それでは、時間になりましたので、「作る」から、大体、どんなふうにまとめたかを1分で説明していただきたいと思います。よろしくお願いします。

では、「作る」からお願いします。

○委員

皆さんからいただいた意見を、同じ内容同士グループに分けました。一番大事なのは、会って話すこと、会話や対話を大切にしていきたいということ。わざわざ時間を決めて集まってとかではなくて、何となく、たまたま会ったその人たち同士で、お互いに、気軽にいろんなことを話し合っただけのことから、できる人ができるときにできることをやって、また進めていけばいいんじゃないか。

やるときのポイントとしては、気軽に参加できる雰囲気を作り、ハードルをなるべく下げる。あと、当事者の声を拾い上げたり、やりたいというつぶやきをすぐに具現化したりすることが大事だということが出てきました。

それから、まず、やっている本人が楽しいことと、負担感が大きいと続かないことが、作る、実際にやる人たちのポイントかなと思います。また、終わることを恐れない。1つの課題が解決した

ら、次のステージへ行くことがあるので、できなくなったことに関して罪悪感を抱く必要はないんじゃないかとまとまりました。

○委員長

それでは、「広げる」はどうなったでしょうか。

○委員

「広げる」です。

広げるというと、まず、情報発信が先に来ると思います。まず、誰に情報発信をするかが問題となります。学校の話が中心になったので、まずは保護者に対してということになりますが、保護者をどう巻き込むか、具体的に誰に発信するかを考えていく必要があります。

それから、手段としては、インターネットも大事けども、口コミも大事だよということになりました。そのときに、やはり知らせる仕組みとか、あるいは広げるための言葉をどうするかとか、そうしたことが重要になります。例えば、ボランティアという言葉を知ると、ちょっと引いてしまうといったこともあります。そういうことを考えていく必要があります。

では、情報発信は誰がやるのかというと、やはり人がやるということだと思います。そのキーパーソンをなるべく見つけるようにするとか、他人から信頼されている人とか、いろいろな人を探していくのが必要です。

そして、その人を支えるために必要なのは、やはり組織です。行政や学校の役割、あるいは企業の役割も一緒に考えていく必要があります。そういった、人と組織が情報発信をすることによって、場をつくっていくと、行ってみたい、やってみたい、つながっていくとうれしい、一緒にやってみたいということがだんだんできてきて、これが相互にフィードバックしていくのではないかと思います。

そのためにはどうしたらよいかというと、できる人ができるときにできることをとか、欲張らずこつこつと、細く長く、楽しく緩くやるとか、そういう形で活動を続ける中で、方法や目的が共有されていって、いい循環になるのではないかという話でまとまりました。

○委員長

では、「支える」はどのようにまとまったか、お願いします。

○委員

では、皆さんにいただきましたカードを、「支える」でまとめさせていただきました。見ていただいたとおり、やっぱりこの一番上の「人」と「理念」で集約されたカードが一番多かったということです。

まず、人につきましては、いろいろとありますけど。まず、こんな人がいいなというところで、人と関わるのが楽しい。それから、偏見も先入観も持たず接することのできるところが、こんな人がいいなというところをまとめたものです。その中には、いろいろと保護者が情報共有したりだとか、イベント参加に送り出す保護者もいたりだとか、あと企業の連携とか、いろいろございました。

それから、やっぱり人と同じように支えるためには、理念を持った人がいないと、やっぱ支えられないのかなというところなんです。これは、欲張らずに、細く長く、無理をしないとか。応援をしてくれる、フィードバックしてくれる、温かく見守ってくれる、こういう考え方、理念を持った人が支えてくれるのかなということです。

あと、これを支えるための人材確保のために、ちょっとハードルが高いと、なかなか取っつきにくいので、そういうところのハードルを下げるとか、負担感を感じさせない形で人材確保するのが必要なのかなということです。

それから、これは「広げる」ともかぶるかもしれませんが、情報発信も必要かな。広めるために、つながるためには、やっぱり情報発信もしていく必要があるのかなということでもまとめさせていただきました。

○委員長

短時間にも関わらず、今日の話合いをまとめていただきまして、ありがとうございました。

今日、今、皆さんにまとめていただいたものに加えて、この審議の柱の後、得意分野を生かした相互のつながりを強化する方策。ここについては、議事録の中から事務局で拾ってもらって、今日出た方策と考えられるものをピックアップいたします。

次回、(1)の審議において、どういうことが意見として上げられたか、次回の会議のときに共有させていただきたいと思います。次回は(1)の続きと、あと(2)もやるので、2時間15分ぐらいの会議をさせていただければありがたいので、御了承のほどお願いします。

また、事務局より詳しい時間は御提示しますが、お忙しい中恐縮ですが、御協力のほどお願いいたします。

○事務局

本日もありがとうございました。本委員会の会議録につきましては、本日からまた3週間後を目安にメールにて委員の皆様へ送らせていただきます。ご自身の発言の部分をご確認いただきまして、また直すところがあったらお知らせください。次回の第8回の委員会については、2月26日木曜日開始時刻は午後2時30分からお願いいたします。

時間についてはまた委員長と相談してお伝えいたします。その他ご不明な点がございましたら、いつでも事務局まで御連絡ください。事務局からは以上です。

○委員長

ありがとうございます。これで第7回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。